

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.06 秋の自然を楽しもう No.18 木工クラフト体験
---------	-----------------------------------

学校名	学校法人日吉学園 とさ自由学校
学年・生徒数	12名 (小学1・2・3年生)
実施場所	佐川町内 「いちとじゅう」周辺の森
目標	「環境にやさしい」ものづくりとは？ 佐川町で「地球に優しい林業と地球に還るものづくり」をしている「いちとじゅう」と一緒に、ものづくりをとおして「土のありがたみ」や「森や木々の果たす重要性」について気づく。
実施教科	
関連教科	
準備物	児童…水筒、帽子 学校…ブルーシート、救急バック、絵の具、筆、カメラ 講師…木工用の木や枝葉、ダンボール

実施項目	樹木や植物の観察、作品づくり
対象プログラム	No.06 秋の自然を楽しもう No.18 木工クラフト体験
所要時間	樹木や植物の観察 60分程度 作品づくりと講話 60分程度
実施内容	<p><u>・森の散策</u></p> <p>佐川町内の山林で、樹木や植物を観察しながら、午後に予定している木工作品づくりの材料を収集した。歩きながら、講師が木や植物の名前や特徴などを伝えた。また、シダの葉を飛ばしたり、冬イチゴを採って食べるなどして、自然の恵みを体感した。</p> <p>この場所は、講師が間伐作業の委託を請けている山林で、講師が重機で林道を切り開いた話など、山の仕事についても聞くことができた。</p> <p><u>・昼食、休憩</u></p> <p>林道の途中で休憩を兼ねて昼食の時間とした。児童らは、当日の朝に学校で作ったおにぎりを持参していた。木の切り株を椅子代わりにしたり、木の枝を荷物掛けに使ったり、児童らはそこにある木を上手に利用していた。</p> <p>食後は、森の中を元気にかけまわっておにごっこなどをする子もいれば、詩(物語)を書いている子もいた。それぞれの個性を活かして、森の中での時間を有意義に過ごしていた。</p> <p><u>・木工クラフト</u></p> <p>講師のアトリエ近くの裏山に移動し、屋外で木工クラフト(トナカイの顔づくり)を行った。</p>

講師が事前に土台となる木（直径約10～12cm、高さ約15～20cm。上部に2か所穴をあけたもの）を用意しており、その木に、午前中に採取した木の枝や葉（モミ、杉、笹、シダ、ムラサキシキブなど）を耳や角にみたてて穴に差し込み、目や鼻などは絵の具で描いた。それぞれに特徴のある作品が完成した。

最後に、講師が「学校の校舎や机は何でできていますか？」と質問し、児童らは「木」と答えた。講師は、「身近なものに木が活用されている、その木が育つために土と水と太陽が必要、土から生まれたものを土に還す」など、森や土のありがたさや自然の大切さを伝えた。

実施風景



補足 その他、プログラムの 特徴

- ・子ども達は植物の名前をよく知っていた（日頃の学習が活かされている）。
 - ・植物採取については、講師が事前に地主の許可をとっていた。
 - ・この他にも、年間を通して、間伐と製材、森林と防災、自然のものを使った調理体験、海の環境学習、木質バイオマス施設見学など様々な環境学習に取り組んでいる。
 - ・とさ自由学校は、自然の中での体験学習をとおして、子ども達の個性、自主性、自主性等を重視した授業を行っている。
- また、1～6年生の学年別ではなく、子ども達がやりたいことを話し合い、異年齢が複合的に関わるクラス編成（プロジェクト活動）となっている。